

2020年 10月 N44

第2グループホームの 開設を計画

「旭ヶ丘二丁目」の閑静な住宅街に

「希望」が開設するグループホームとしては、2つ目になります。旭ヶ丘2丁目の閑静な住宅街の中、陽当たりもよく静かな環境、交通の便もよく、近くのバス停から四街道駅まで5～6分。2階建ての建物で、間取りもゆったり6畳～8畳、男女とも入居可能です。家賃は4万円から(市や国の補助がありますので、実質1～1.5万円です)。見学を歓迎します。下の写真は玄関前から建物全体を観たものと、1階の居室の一つです。耐震もOK、しっかりした建物で一つ一つのお部屋もきれいです。

見学を希望される方 043-421-6645まで。



どんぐり工房の施設長について

8月1日をもって、どんぐり工房の施設長に新しく、荒谷久美子が就任致しました。これまでは、大淵義明が施設長と法人事務局長を兼任しておりましたが、大淵は新たなグループホームの開設プロジェクトに専念します。今後ともどんぐり工房を宜しくお願い致します。



会員・準会員の皆さん

会費納入ありがとうございました
今年度の総会は、委任状により総会の議決をしていただくことになりましたが、会員・準会員の皆さんから会費は滞りなく納入されました。合計129,000円となりました。有難うございました。大切にに使わせて頂きます。

「希望」エッセイ

「頑張れ！」

小林征司

政局が大きな変動を見せている。だが、いろいろな事を約束しながら結局振り返ってみると何もできていない。「でも疲れた。もういいや」そう言って自らの責任を放棄して逃げ出せる人が羨ましいと思っている人も居るのではないかな。

だが、すべてを投げ出して逃げ出したくても逃げ出せないひとが大勢いる。では、我々は日々の心労で気力を失いかけている人に対してどんな応援が出来るのか？ コロナ禍の中で職を失い経済的に困窮しているシングルマザーや中年層の引きこもりが数十万と言われる中で、子どもの将来に灯りを見いだせない「80・50問題」の親たち。

彼らが、日々苦しんでるのを知りながら何もできない自分の非力さが悔しくてならない。助けられなくても何とか励ますことはできないか。

そんなことを考えていたら先日、詩人暁鳥 敏の言葉に出会った。

「10億の人に10億の母あらむも、我が母にまさる母あらむや」

ちょっと暁鳥さん、あなた見識が狭すぎないか？筆舌に表せない辛苦の中で子どもを守るのはどの母親も一緒だよ。

100億の人に100億の母あれば100億の母全員が神の如し。私はそう思いたい。私の中で私の母がそうであるように。

大変だからこそ頑張ってみる。苦しいからこそもうちょっと生きてみる。

どうか、明けない夜はありません。明日、明るい太陽の下で貴方と握手をしたいです。



おたまじゃくしの

つぶやき

「グループホーム」

伊佐 勉

グループホームが増えてきました。ただ高齢者対象と障害がいのある人対象では形態が違います。高齢者施設は認知症の人が原則9名1ユニットで共同生活をします。

障がい者施設は「住まいの場」とされ、4名以上で共同生活をします。日中は一般企業に勤務したり、通所施設を利用したりしているようです。

私は常々施設名を変えられないかと考えています。高齢者施設は「オレンジルーム」、国レベルの認知症施策はオレンジプランですし、つどいの場はオレンジカフェだったりします。障がい者施設は「チャレンジルーム」。障がいのある人は「チャレンジド」と言われることもあるし、前向きな感じがしますでしょう？

64歳で障がいのある身としては「オレンジルーム」かなあ。もっとも「在宅のおひとり様」を貫くつもりです。